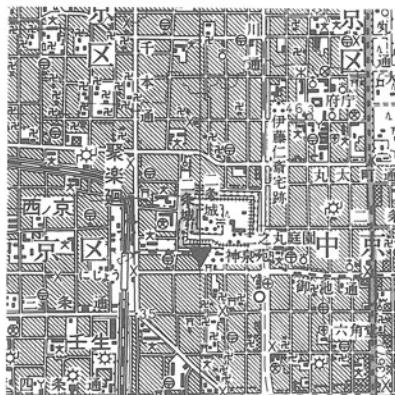


2000年出土の木簡



(京都西北部、京都東北部)

削工事に先立ち地盤改良が施されていたため、大半の地点で遺構の確認、層序の確認などは不可能であった。掘削では地表下九〇—一三〇cmのあいだに湿地状を呈するシルト層が認められた。調査では出土遺物では土器類の出土

- | | | |
|---|---------------|----------------|
| 1 | 所在地 | 京都市中京区西ノ京職司町 |
| 2 | 調査期間 | 二〇〇〇年（平12）一〇月 |
| 3 | 発掘機関 | （財）京都市埋蔵文化財研究所 |
| 4 | 調査担当者 | 菅田 薫・吉本健吾 |
| 5 | 遺跡の種類 | 都城跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 平安時代 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 力 |

京都・平安京跡左京三条一坊十町

8 木簡の釈文・内容

(59) $\times 20 \times 3$ 081

木簡の形状は、上方の左右に切り込みを入れた形態の可能性があるが、折損しており〇八一型式とした。表に三文字程度の墨痕が認められ、裏面には墨痕は認められない。

京都市文化市民局 〔京都市内遺跡立会調査概報 平成十二年度〕 (一一〇一年) (菅田 薫)

